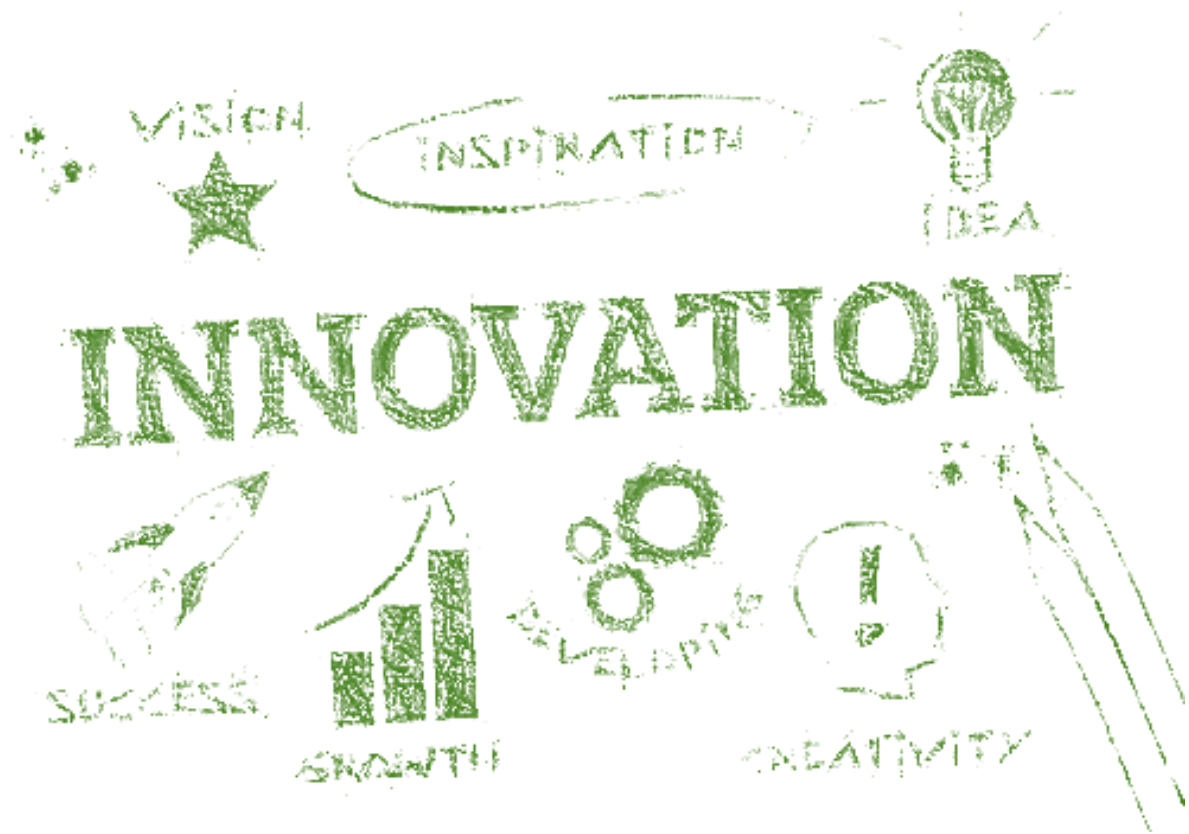


三重モデルの地域イノベーションを起こす仕組みと人づくり



西村訓弘
Norihiro Nishimura

三重大学で試みた新大学院での取り組み

三重大学について

三重大学は津藩の藩校である「有造館」をその起源とするとされ、三重県内の唯一の国立大学として、1949年に設置された。



学部・研究科

- ◆人文学部・人文社会科学研究科
- ◆教育学部・教育学研究科
- ◆工学部・工学研究科
- ◆生物資源学部・生物資源学研究科
- ◆医学部・医学系研究科
- ◆地域イノベーション学研究科

学生数: 7,044名
 ✓学部生: 5,960
 ✓大学院生: 1,084
 教員数: 751名
 ✓教授 237
 ✓准教授 195
 ✓講師 73
 ✓助教 246
 * 2020年5月1日現在

地域イノベーション学研究科の立ち位置 (構想時)



既存研究科は、従来からの教育・研究を深化させる。

地域イノベーション学研究科は、三重大学が「先進的な取り組みを実行する実践の場」として、既存の5研究科の全てから等距離に位置する研究科として設置し、各研究科と連携しながら「大学を取り巻く環境変化に対応して臨機応変に施策を実行する」ために、大学執行部が直接的に運営する。

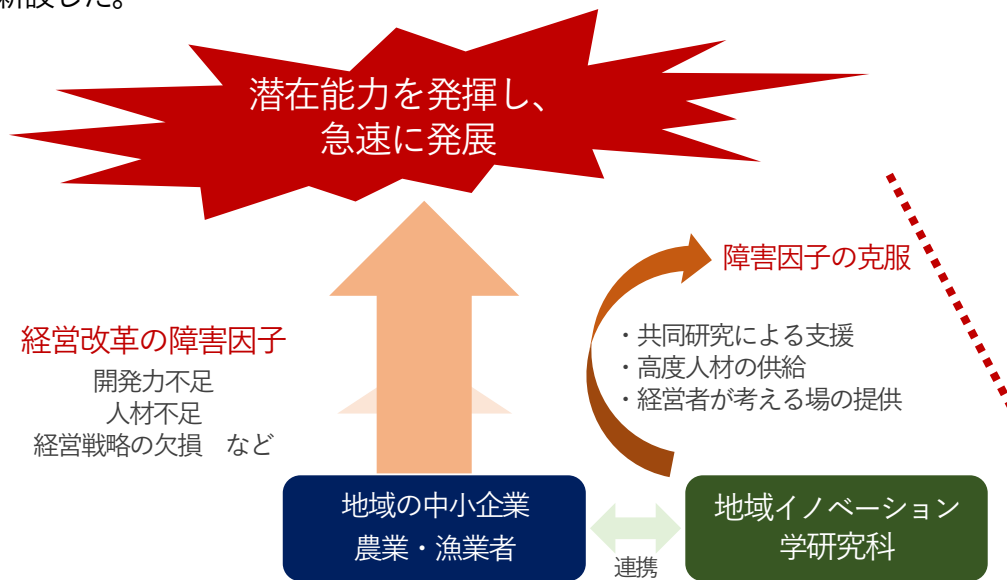
新大学院「地域イノベーション学研究科」設置の背景と目標

(構想時の社会背景)

三重県内の企業では提携先の大企業の海外進出に呼応した海外展開、他分野への進出などの経営改革が必要となっていた。しかしながら、現実には個々の企業における「開発力の脆弱さ」、「人材不足」、「経営戦略の欠損」などが、経営改革を進める障害となっていた。

地域企業を取り巻く社会背景を受け、三重大学は地域産業界から「新事業を開拓する人材の供給」と「新事業創造に繋がる共同研究」への協力を求められた。

地域の産業界からの期待に応えるために、三重大学は「地域イノベーション学研究科」を2009年4月に新設した。



地域イノベーション学研究科の地域社会における役割 (概念図)

地域企業の社長100人を博士にすることを目標の一つとした (社長100人博士化計画)

地域の社長たちと行ってきた取り組み（西村ゼミ）

地域の経営者たちと大学で共に学ぶ場「西村ゼミ」

西村研究室ゼミ（通称：西村ゼミ）は、私（西村訓弘）が2007年1月に三重大学医学系研究科の教授に就任してから開始したもので、当初は、博士課程に入学してきた社会人学生（ほとんどが地域企業の社長たち）と毎週金曜日の午後6時からエンドレスで行っていました。その後、博士課程の学生に限らず、学部生、地域の行政の方々、社長や社員の皆さんが集う、拡大版の西村ゼミとして実施してきました。その延長として、地域イノベーション学会が立ち上がり、地域イノベーション学研究科の構想へとつながりました。

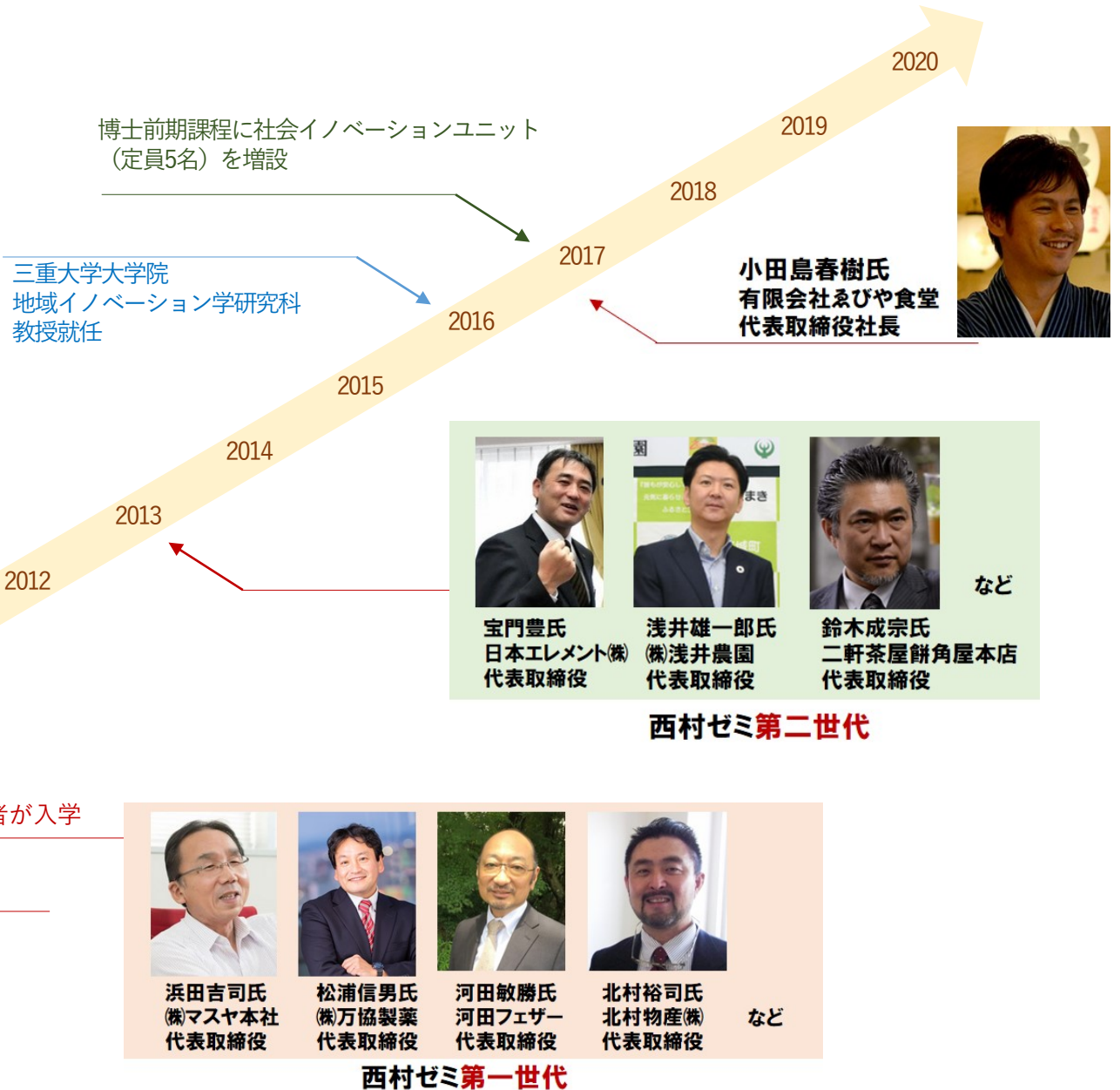


三重大学医学系研究科教授就任

西村ゼミを開始

地域イノベーション学研究科の設置

地域イノベーション学会の設立



私たちが目指している地域イノベーションの姿

私たちが目指すイノベーションの姿



INNOVATION

地方が目指すべき
イノベーションの姿



小文字のinnovationの集積
で社会を大きく変革する

『シュンペーターが提示した新結合が出現する姿』

*シュンペーター-孤高の経済学者- 伊東光晴・根井雅弘著 岩波新書を参照

シュンペーターによれば、**新結合は群生して現れる**という。なぜなら、「一人あるいは数人の企業者の出現が他の企業者の出現を、またこれがさらにそれ以上のますます多数の企業者の出現を容易にするという形で作用する」からである。

社長100人博士化計画の現状

地域イノベーション学研究科で学んだ主な経営者たち



(博士論文題目)
同族経営から同志経営へ

2015年3月 博士号取得 (2012年4月入学)
(株)マサヤグループ本社
代表取締役社長 浜田吉司さん



(博士論文題目)
ビール製造への利用を目的とした香気生産野生酵母の香気特性および実用性評価に関する研究

2018年3月 博士号取得 (2012年4月入学)
(有)二軒茶屋餅角屋本店/伊勢角屋麦酒
代表取締役社長 鈴木成宗さん



(博士論文題目)
病害抵抗性トマトの育種によるトマト栽培における収益性改善に関する研究

2016年3月 博士号取得 (2010年4月入学)
(株)浅井農園 代表取締役 浅井雄一郎さん

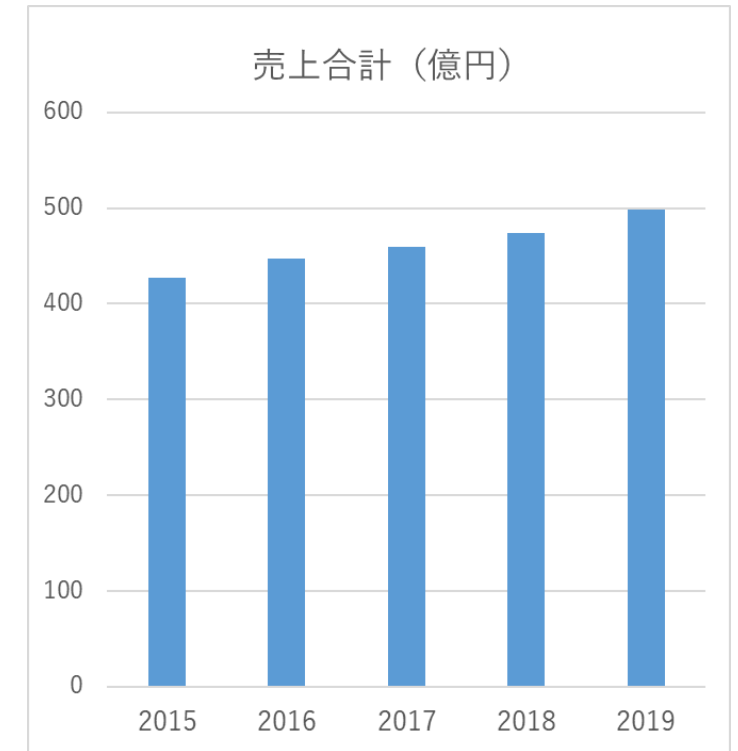


(博士研究題目)
観光地に立地する中小飲食店のプロセス・イノベーションに関する事例研究

2019年3月 満期退学 (2016年4月入学)
(有)ゑびや 代表取締役社長 小田島春樹さん

村田吉優	株式会社サイネックス
美濃松謙	有限会社若松屋
浜田吉司	株式会社マサヤグループ
浅井雄一郎	株式会社浅井農園
中山保之	株式会社伊勢萬
鈴木成宗	有限会社二軒茶屋餅角屋本店
永井規夫	株式会社ナベル
小田島春樹	有限会社ゑびや
松浦信男	万協製薬株式会社
守金大蔵	ダイヤ製薬株式会社
河田敏勝	河田フェザー株式会社

*医学系研究科で博士号を取得・取得見込みの経営者を含む



*本研究科で幹部社員の博士号取得に積極的な(株)製油を含む

社長100人博士化計画で博士になった経営者たちの企業業績の推移

新たな参加者

- ・南伊勢町で伊勢真鯛を養殖する漁師
- ・三重県内の企業をM&Dで束ね、新たな印刷業に挑戦する経営者
- ・三重県内の中堅自動車部品製造企業の総合家後継者
- ・シェア・ワーキングスペースの開設を目指す起業家
- ・四日市の老舗すき焼き屋の女将
- ・三重県内大手学習塾の経営幹部
- ・伝統医薬品を復刻し、伊勢神宮前で販売する製薬会社社長 など

三重県と三重大学が連携して行う地域産業振興のための取組み

三重県では、**三重県庁と三重大学が連携**することで、県内の**経営者の育成を通じた地域産業の振興**を行っている。
三重県が主催する経営塾で**見出された有望な若手経営者**（例えば、小田島氏）が、三重大学の大学院「**地域イノベーション学**研究科」で学び、学んだ成果を基にした事業展開を三重県の**産業振興施策が後押し**をする仕組みが**有効に機能**している。

① 見つけて

三重県が若手経営者向けの**経営塾を実施（2011年～）**し、**有望な若手経営者**を見出した。

② 共に考え

三重大学が**地域産業界と連携した教育を行う新大学院**を2009年度に設置し、地域企業の経営者に学ぶ場を提供した。

◎目標の一つとして掲げた項目：**地域企業の社長100人を博士にする（社長100人博士化計画）**

○大学院で学んだ経営者（代表例）



(株)浅井農園 浅井雄一郎社長
(2010年4月入学)
高収益型トマト栽培農業を実現



(有)あびや 小田島春樹社長
(2016年4月入学)
来客予測AIで店舗の利益が15倍

○これまでの実績と目標（博士取得した経営者の人数と企業の売上額合計）



③ 活かす

三重県が2018年11月に策定した**みえ産業振興ビジョン**を基にした施策で、地域の経営者の**活躍を後押し**する。

地域産業の発展

地方国立大学と地域行政が連携し、強い経営人材の育成に取り組み、**地域産業の発展**を引き起こす。